

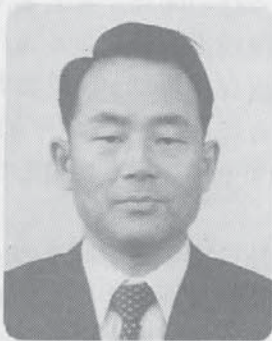
# 学校保健

THE SCHOOL HEALTH No.199

(財)日本学校保健会

生涯を通じて、豊かな心を持ち  
たくましく生きる子どもの育成  
—学校・家庭・地域の連携をととして—

第43回全国学校保健研究大会の主題  
(平成5年度 大分県)



## 学校保健の充実

文部省体育局長 奥田 與志清

近年、高齢化社会の進展とあいまって国民の健康に対する関心が高まり、児童生徒の時期から、生涯を通じて健康な生活を営むための能力や態度を培うことがますます重要となってきました。

一方、児童生徒を取り巻く生活環境や生活様式は大きく変化し、児童生徒の心身の健康に様々な影響を与えています。例えば、児童生徒の間に、高血圧、高コレステロール等の成人病の徴候、各種アレルギー症状が見られるなど新たな健康問題が指摘されております。

また、エイズについては、我が国においても患者・感染者が増加しています。特に、最近、全国的に、また、若い世代に感染が広がるなど、今後の急激なまん延が危惧される状況にあり、このため、若い時からエイズに関して正しい理解を深め、エイズを予防する能力を培うとともに、患者・感染者に対する偏見や差別を除き、人間尊重の精神を育てることが極めて重要であります。

文部省においても学校保健の重要性に鑑み、関係者の協力を得て諸施策を積極的に推進しているところであります。

このような状況の下、我が国の学校保健のセンター的機能を持つ日本学校保健会への期待はますます大きくなっております。同会は、学校関係者が一堂に会して児童生徒の健康問題について協議する全国学校保健研究大会を長年にわたり共催するとともに、文部省の依頼により、エイズに関する中学生・高校生用教材や教師用指導資料を作成するなど、学校保健の推進に多大な貢献をされております。

日本学校保健会の関係者の皆様に深く感謝の意を表するとともに、今後のますますの御尽力をお願いする次第であります。

今後も、21世紀を担う児童生徒が健康でたくましく生きていくことができるよう、日本学校保健会と手を携えて、学校保健の一層の充実に努めて参りたいと思っております。

### 目次

エイズに関する 指導の意義と重要性	..... 2
エイズに関する指導 小学校の指導事例	..... 3
中学校の指導事例	..... 4
高等学校の指導事例	..... 5
Q & A	..... 6
保健文化賞の受賞について	..... 7

会報をよくするため、読者のご意見を求めています。お葉書をお寄せください。

# エイズに関する指導の意義と重要性

エイズ教育指導資料作成小委員会委員長 平 山 宗 宏  
日本総合愛育研究所 所 長

## 状況が変わってきた

わずか数年前と現在とではわが国におけるエイズの受け止め方は大きく変わってきた。文部省ではかつて日本学校保健会を通じて学校におけるエイズ指導の手引を作成したが、当時のエイズは、重大な病気ではあるがわが国ではまだ特殊な病気、しかし患者や感染者を差別しない人権教育を大切にしよう、という認識であった。つまり、当時のわが国におけるエイズは、輸入された治療用の血液製剤による予期せざる不幸な感染か、外国人と関係のあった男性同性愛者に限る、という状況であった。

しかし数年の間に、世界的にエイズの蔓延が進む危機の中で、わが国でも最近発見される新感染者の年齢構成は過半数が20歳代となり、しかも異性間感染が主になってきた。このことは成人後にエイズのことを知ったのでは間に合わず、思春期におけるエイズの正しい知識の普及が必要になってきたことを意味している。また、夫婦間の感染が増してくるのに伴って、HIVの母子感染（垂直感染）がわが国でも稀ではなくなってきた。産科医療の場では既にHIV感染者の分娩を常に念頭において対応せざるを得ない実状になっている。

## 変化への対応は

こうした状況の中で、小・中・高校においても、エイズの正しい知識と人権尊重の教育を進めなくてはならなくなり、文部省では日本学校保健会を通じて、生徒用のパンフレットを作成し、昨年末から今年初めにかけて高校生用パンフレットを全高校生及び同年代の専修学校等の生徒に配布し、ついでこの秋には中学生用のものを配布した。

思春期、あるいはそれ以前からのエイズに関する指導、そして母子感染への対応、母親である感染者や感染児を対象としたカウンセリングなどの諸問題が起こってくれば、これは当然学校保健から母子保健・医療の分野での研究や実践が要求されてくる。

## 性教育との関連

学校におけるエイズに関する指導のあり方は以下のように考えられる。

エイズは性感染症である以上、それは当然性教育との関連で取り上げられる必要がある。しかしわが国の性教育の実践は欧米に比べてなお経験が浅く、

現在の学校現場の先生方も大学における教職教育の中でエイズについてはもちろん、性教育の指導技術を十分には教わってはきていない。そのためもあってか性教育の具体的方法については、いろいろな流儀があって、この方面の世の中はかなり喧しい。小学生から性交を教えるべきとする性の開放を考える流派から、性の乱れを憂えて貞操純潔教育を説く流派までであるというのが筆者の正直な感想だが、性教育は人間教育そのもので、子どもには発達段階(年齢)に応じた教え方をする、という中庸な線で推進して欲しいと念じている。

繰り返して申し上げるが、性に関する指導そのものが人間教育である、という基本は押さえておく必要がある。具体的には小学校低学年では助け合いややさしい心の大切さ、入浴や手洗いなど清潔の必要を知る健康教育の初歩から入り、中学3年生の義務教育最終段階では、人権問題から望まない妊娠を避けるための避妊法の実際までを理解させておく必要がある。

## 情報の正確な伝達

一方、エイズに関する正しい知識のパンフレットの中では、成人してからでは間に合わないという意味で、コンドームを正しく使えばエイズの予防になる、という主旨の表現が入っている。将来に備えてという意味で、決して生徒達にコンドームを用いた性交を勧めているわけではない。この点の理解は保護者をはじめ地域の方々に間違えぬようお願いしたい。

なお、患者・感染者に対する偏見や差別の払拭に関する教育の例題に引用される青少年患者は、中高年生と同年代の者という意味で血液製剤や輸血による感染者が多いが、今後は母子感染例の増加することが避けられない。このことはエイズが次世代に及ぶ事実を警告する意味もあるが、教える側でも深刻な趨勢は知っておいて頂きたい。妊娠はエイズの発病や悪化という意味でリスク条件であり、母子感染児が発病するまでの期間は他の感染者よりも短いとされている。感染経路は経胎盤、産道、母乳のすべての可能性があり、感染を受けている妊婦の出産に当たっては、帝王切開をし、母乳を与えないことで母子感染を防ぐ努力が行われている。

## エイズに関する指導

## 小学校の指導事例

東京都板橋区立舟渡小学校 教諭 長柄克彦

## 児童のエイズに関する知識

新聞やテレビからエイズという言葉を楽しみに聞くようになり、子ども達もエイズについての知識を持っている。授業をするにあたり子ども達がどの程度エイズについて知っているのか、事前にアンケートをとった。その結果、次のようなことがわかった。

①エイズという名前を全員が知っている。②何から知ったのか—1位テレビ96%、2位新聞49%、3位家の人44%、4位友だち36%、5位本26%、6位先生19%、③エイズについて知っていること—○抵抗力がなくなる、○ぼつぼつができる、○うつると死ぬ病気、○血液が混ざるとなる、○セックスでうつる、○人のつばでうつる、○治せる人がいる、○体から体へうつる。

子ども達はエイズに関してあいまいで断片的な知識しか持っていない。そこで、エイズという病気のあらまし(特徴)について理解させることが大切であると考えた。

## 授業の展開例

○単元名…病原体がもとになって起こる病気の予防(体育科保健領域 第6学年)

○ねらい…①エイズという病気やその予防について理解する。②エイズに関する学習を通して、健康な生活を実践する態度を育てる。

## ○一単位時間の学習活動と指導上の留意点

1. 病原体がもとになって起こる病気の予防について思い出す。
2. エイズについて知っていることを発表する。
  - ・事前にエイズに関する予備知識の調査結果をまとめておく。(短冊、TP)
3. エイズという病気について知る。
  - ・抵抗力が弱くなる—白血球の働きから、たいした病気でも重い症状になる。
  - ・発病後の死亡率が高い—具体的な数字をあげ、他の病気での死亡率と比較する。
  - ・感染してから発病するまでの潜伏期間が長い—体験者の多いインフルエンザや風疹の潜伏期間と比較する。
  - ・血液によって感染する可能性がある—1,000万匹の蚊の例から、日常生活ではうつらないこと

を説明する。

- ・感染しにくい病気である—空気中では長く生きられないことを説明し、日常生活では感染しない病気であることを強調する。
4. エイズにかからない方法について発表する。
  5. エイズにかかっている人への偏見について考える。
    - ・エイズ患者・感染者に対する偏見の苦しみについて、本や新聞記事等を紹介する。

## 児童の反応

上記の展開例で授業を行った結果、エイズ予防について次のような意見が発表された。

○血液で感染しないようにエイズについて知る。  
○血液がついたらすぐに水で洗い流す。○普通に生活する。○手洗い・うがいをする。日光にあたる。睡眠をとる。○抵抗力を強めておく。○病原体を体の中に入れない。

## 授業実践を通して考えたこと

1. 小学生にどこまで教えたらいいのか。

予防方法を考えるには、どうしたらうつるのかという感染方法を知ることが大切である。エイズの場合、性的接触での感染者が一番多く、



お風呂やプールではうつりません

小学生の日常生活では感染しないと言ってよい。しかし、小学校においてこの性的接触による感染について取り上げるかどうかは難しい問題である。

2. 発達段階に応じた指導。

低・中学年に対しては日常生活では「うつらない」と言い切る。発達段階を考え、「うつらないよ。心配しなくていいよ」と言い切った方がわかりやすく、エイズに対する不安を解消することにつながる。

高学年では小学生の発達段階を考慮しながらエイズについての正しい認識を持たせる。  
○エイズという病気のあらまし。○エイズ患者・感染者への偏見。とくに後者については人権にかかわる問題で、ぜひ強調しておきたい。

# エイズに関する指導 中学校の指導事例

東京都江戸川区立葛西第二中学校教諭 大根田 芳 明

今、エイズに対する考えや受け止め方についてさまざまであるが、正しい知識・理解を身に付け積極的に取り組んでいくことのできる人間の育成が重要な課題であると考え。また、今後爆発的に増えると思われ、予想されるエイズ患者・感染者が、一人の人間として人間らしく生きていくことのできる社会を築くことが大切である。そのためには、誤解や偏見・差別を無くし、「共に生きていく」暖かな思いやりのある人間を育てることが重要である。また、それ以上にエイズ予防の教育は重要であることを認識して取り組むべきである。

## 一授業実践の記録一

1. 単元名 疾病の予防「エイズと疾病」

2. 対象学年 第3学年

3. 授業のねらい

- (1) エイズに関する正しい知識や予防を理解させる。
- (2) エイズに対する情報を正しく選択する能力を身につけ、不安や混乱をおこさないようにする。

4. 授業の展開

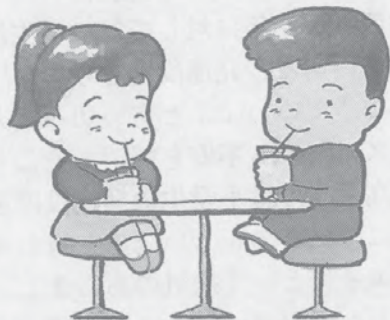
- (1) エイズの疾病概念
- (2) エイズの感染経路
- (3) 感染経路の誤解
- (4) エイズの予防
- (5) エイズと人間尊重

5. 生徒の反応

今日、エイズという病名を知らない生徒はほとんどいない。しかし、エイズという病気はどのような病気なのか、正しく理解できている生徒は少ない。

本校でのアンケート調査によれば、多くの生徒は「必ず死ぬ

恐ろしい病気、治らない怖い病気」と受け止めている。また、上級生になるにつれて「感染してもすぐには発病しない」、「血



一緒に働いたり、食事したりしてもうつりません

液で感染する」。特に、3年生になると「性行為感染・血液感染・母子感染」と答える生徒も少なくない。さらには「コンドームを使用すれば感染しない」と答える生徒もいる。

こうした反応は、テレビ・ラジオ等のマスメディアによる情報の豊富さによるものであると考える。しかし、このような情報を正しく理解し、判断して行動することが重要なのである。また、感染の経路や仕組みなどについて正しく理解されていない。したがって、HIV（ヒト免疫不全ウイルス）が血液中や精液・膣分泌液中に多く含まれているということ指導することが大切である。

感染経路の誤解について資料を基に指導したところ、次のような反応が見られた。「キスしてもうつらないんだ、今まで誤解してた」というA子、「お風呂やプールと一緒に入ってもうつらない、知らなかった」というB男らの反応である。

授業後の生徒の感想文から、①エイズ教育を数多く実施してほしい。②エイズ教育を真剣に取り組もうとしたこと。③エイズ患者・感染者の悩みや苦しみが理解できた。④正しい知識・理解が得られたなど、エイズに対して真剣に受け止め正しく理解しようとする積極的な姿勢・態度があることが分かった。また一方で、①身近にエイズ感染者がいたら、どう行動してよいか困ってしまう。②一緒に生活していく自信がない。③エイズ感染者を避けてしまうかもしれないなど、実際問題として、エイズ感染者と共に生きるということに対しては、不安であり自信がないと感じている生徒が多いことが分かった。

6. 授業の反省と今後の課題

生徒は、エイズ教育は大切であると受け止めている。そして、もっと授業して欲しいと望んでいる。しかし、計画的で多面的なエイズ教育に取り組んでいる学校は少ないように思う。この時代の要請に対し、教師自身の指導経験の多少が、この点に表れているのではなかろうか。

教科・道徳・特別活動などの教育活動全体を通して、組織的に取り組むエイズ教育が必要であると考えている。

## エイズに関する指導

## 高等学校の指導事例

東京都立台東商業高等学校教諭 井口一成

単元名 エイズの予防 高校第2学年対象

## 1. 単元のねらい

ア エイズの疾病概念及び感染経路を知り正しい予防法を理解させる。

イ 正しい知識に基づいた行動、意志決定の重要性を考えさせる。

## 2. 本時の準備

ア 別紙プリント（・エイズについて知っていることを書きなさい。・エイズウイルスの感染経路は？・あなたにとって性交は、どんな意味がありますか？・あなたがエイズウイルスに感染しないためにはどのような行動をとりますか？・エイズ検査をどう思いますか？・相手にエイズ検査をしてほしい場合、あなたならどうしますか？）により、生徒達がエイズ及び性交に関して、どの程度の知識を持っているかを知る。

イ 東京都教育委員会発行のエイズパンフレットをどのように利用するか。

## 3. 授業の展開

## 〔導入〕

アンケートによって、エイズについて知っていることを記入させ、生徒のエイズに対する全体イメージを確認する。

## 〔展開〕

## 1. エイズの疾病概念

① HIVに感染すると免疫機構が破壊する。② 抗体ができるまで、数週間かかる。③ 予防薬・治療薬が未だ開発されていない。④ 感染力が弱く、予防可能な病気である。

## 2. 感染経路

3つの感染経路について理解させる。

- ① 性的接触による感染
- ② 血液を介する感染
- ③ 母子感染

## 3. 予防についてのグループ討論

① 血液、精液、膣分泌液を介して感染する可能性がある。② コンドームを正しく着用・処理することが予防に有効であること。③ エイズ感染のほとんどが性的接触による感染になっていること。

## 4. 性交への意志決定

① 性感染症の予防には安易に性交をしないことが重要である。② いま、性交をしないという意志決定も大切な予防法であることを理解させる。

## 〔まとめ〕

## 5. 生徒の反応と変容

生徒達の情報量や考え方を理解するには、事前にアンケートを取ったり、グループ討論や発表形式などを取り入れ、どの程度の知識理解をしているかを知る事が大切である。

生徒一人ひとりの考え方は、自由な発言や討論によって表現される。そのことによって、自分の考えが正しいか、間違っているか自分で判断することが大切である。

幸いにも、生徒達は自分の意見を、はっきりいい他の生徒達の意見もよく聞いていた。

生徒同志の意見や行動が、知識から知恵に変わる一歩である。

## 6. 授業者の反省・提言

エイズ予防では、性的接触をどのように指導するかが問題になるので、性教育の基盤が大切である。また感染予防にコンドームが有効なために、着装を試験管やモップの柄などを利用して、指導する必要があるかが話題になっているが、私は指導したことはない。

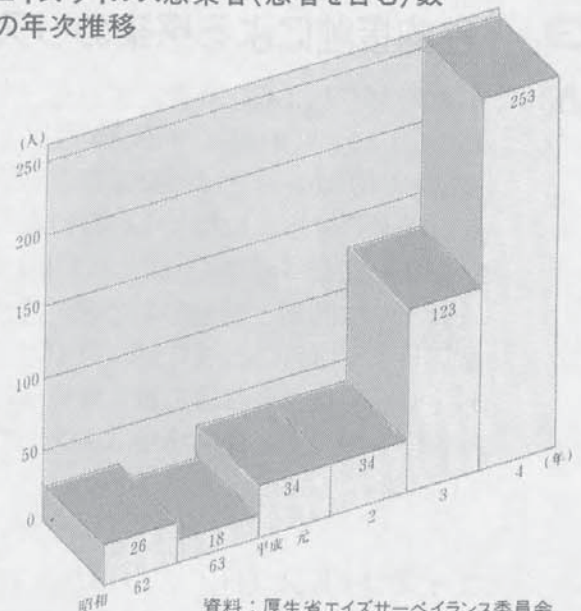
それより、HIV感染者とどのように共生し、連帯しながら生きていくか。感染者のプライバシーをどのように守っていくか。などいろいろな方向からこのエイズ問題を解決することが大切である。

エイズの教材を通して、教師が何を生徒に伝えたいかによって指導内容が変わってくる。

エイズ予防には、「教育が最大のワクチンである、ワクチンを間違えると効果がない」を提言します。

## 異性間性的接触による

## エイズウイルス感染者(患者を含む)数の年次推移



# Q & A - 学校保健活性化のために -

エイズに関する指導の手引から ……「学校保健」編集委員 松 本 國 夫

**Q<sub>1</sub>** エイズウイルスに感染したかどうかは、どうしたらわかるのですか。

**A**…… エイズウイルスに感染したかどうかは、血液検査をして初めてわかります。検査は、保健所や医療機関で受けることができます。

エイズウイルスに感染した場合でも、早く発見して医師の指導を受けることなどにより、発病を遅らせることが可能になっています。

また、感染しているかどうかを知ることによってエイズをほかの人にうつさないようにすることは、とても大切なことなのです。

エイズは後天性免疫不全症候群と訳され、H I Vの感染には性的接触による感染、経血感染、母子感染があります。

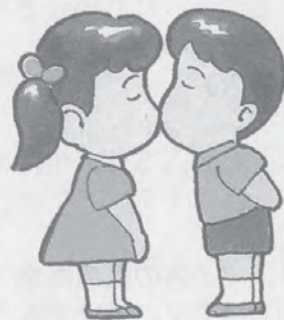
**Q<sub>2</sub>** エイズウイルスに感染した人と手を触れたり、会話しても大丈夫ですか。また、エイズ感染者の血が直接体についてもうつらないのですか。

**A**…… 握手など普通の接触は大丈夫です。お金や物品の受渡も心配ありません。インフルエンザのように空気を介して（飛沫）感染することはないので、会話しても、せき、くしゃみなどからうつりません。エイズ患者とともに暮しながら、身の回りの世話をしたり心の支えになっている人はたくさんいます。

また、皮膚にはケラチンという固い物質を含む細胞層があり、外からの微生物の侵入を守っています。体の表面に傷がない限り大丈夫です。しかし、カミソリや歯ブラシは自分のものを使う必要があるというのは、使用したときに小さな傷がつくことが多いからです。

また、エイズのみでなく、血液を介して感染する病気を防ぐためにも、体や衣服に自分や他人の血液がついたときは、すぐ水で洗い流す習慣をつけ、清潔に心がけましょう。

衣服についた血液は塩素系薬剤の中に浸して消毒し、洗い落とします。エイズの消毒法は煮沸、消毒用アルコール、塩素系薬剤等があり、材料によつて使い分けます。



軽いキスではうつりません

**Q<sub>3</sub>** 性的接触による感染のリスクはどのくらいですか。

**A**…… 専門家の推計的な計算によると、1回の性交で感染する確率は0.1~1%程度といわれています。しかし、1回でも感染する可能性はあり、また実際に外国で1回の性被害にあっただけで感染した女性もいます。男性から女性には感染しやすく、女性から男性への感染は少ないといわれてきました。精液にはH I Vが多く、膣分泌液に含まれるH I Vの量はそれよりも少ないからです。しかし、分泌物に血液が混っていたり、他の性感染症があると、感染の危険性は増すことになります。

H I Vは血液と精液の中に多く含まれますが、他の体液には微量しか含まれません。唾液にも少量のH I Vは存在しますが、感染が成立する量から見るとはるかに少ないものです。ある学者が、H I V感染に必要な唾液量を計算したところ、バケツ3杯分ということでした。したがって、かなり濃厚なキスでも通常感染は考えられませんが、口腔内には炎症や傷がある場合が多く、安全とはいえないでしょう。

(注)

エイズウイルス (H I V : Human Immunodeficiency Virus, ヒト免疫不全ウイルス)

## 日本学校保健会だより

## 「保健文化賞」の受賞について

財団法人熊本県学校保健会 会長 白男川 史朗

このたび、本会が権威ある「保健文化賞」を受けましたことは、誠に光栄であり、本会に関わりのあった多くの方々の御指導と御協力・御援助の賜物と感謝するとともに心からお礼を申し上げます。

本会は、昭和21年、「日本学校衛生会熊本県支部」として発足、その後昭和26年、「熊本県学校保健会」と改称、昭和61年4月1日財団法人を設立して、今日まで諸事業の遂行にあたっているところであります。

さて、この「保健文化賞」は、第一生命保険相互会社が、我が国の保健衛生施策向上のために、昭和24年に創設されたもので、以来保健衛生分野ですぐれた研究と実践を行っている個人・団体に贈られてきましたが、「学校保健」の分野では、本県が最初の受賞と伺っております。

本会が受賞の対象になったと思われる事項を列挙しますと、

(1) 熊本県学校保健研究協議大会を、昭和28年以来

今日まで継続して県内各地で巡回開催。

(2) 健康推進学校の育成事業では、昭和29年度から平成4年度まで411校の応募。

(3) 昭和61年、財団法人設立を機会に財源の確保に努力するとともに県内における学校保健思想の普及に尽力。

(4) 学校・家庭・地域を含めた「心と体の健康づくり」事業の継続推進。

(5) 熊本県独自の小・中・高の系統を工夫した健康手帳の作成。

(6) 各種委員会を設置し、さまざまな立場(職域)の人々の参画を得て調査研究事業・健康増進事業等を推進。

このような全身全霊の努力が評価されたようです。本会は、この受賞を機会に21世紀を担う心身ともに健康な子ども達の育成に、なお一層の努力精進をいたす所存でございます。

## 虎の門(22)

不知不安(某県の教員対象調査 H4.12から)

「あなたはいまエイズについて、生徒に教えて欲しいと言われたとき、教える自信がありますか」という問いに60%の人が「あまり自信がない」、9.5%の人が「自信がない」と回答している。

その理由については、「知識が不足している」が5.6%、「患者・感染

者の人権擁護など配慮すべき問題が多い」が48%、「エイズに関する教材が少ない」が44.7%となっている。(複数回答)

コンドームに関する調査については「中学校から教えるのが適当」が64.7%、「正しい使い方まで具体的に教える」が34.2%、「避妊以外

の用途についても教える」が22.9%とほぼ3つの答に分かれている。

教師の指導力に期待することが大きいこの課題解決の現状を厳しく見極め、教師の基礎的知識の普及徹底と教材化の実践研究こそが急務といえる。

(編集委員 松本國夫)

健康へのひと粒

歯・骨を丈夫に...

ビタミンADを含んだ... 服用しやすい  
ゼリー状ドロップ剤



カワイ肝油ドロップ

河合製薬株式会社

〒165 東京都中野区新井2丁目51番8号  
電話 03(3385)3111~7

発行 財日本学校保健会 村瀬 敏郎 〒105 東京都港区虎ノ門 2-3-13 第18森ビル 電話(3501)3785・0968 振替口座 東京 4-98761 頒価1部100円(送料共)



アウトソール ミッドソール 中敷  
(ラバー) (衝撃吸収材) (ラバースポンジ)  
三層式ソール

# 教育(呼吸・吸圧)シューズ

日本学校保健会推薦 No.881号

**JESに学問を!**  
**科学された教育(吸圧)シューズ!**

日本教育シューズ協議会 TEL(086)272-5463



## 試験紙でできる、尿中白血球検査。

集団検診項目に、尿中白血球反応を加えませんか?  
尿路感染症スクリーニングも、その場で...

エームス尿検査試験紙 潜血(A)、ブドウ糖、蛋白質、白血球  
**ライフスティックス**  
エームス尿検査試験紙 比重、潜血(A)、pH、蛋白質、亜硝酸塩、白血球  
**ネフロスティックス-L**

マイルス・三共株式会社  
東京都中央区銀座1丁目9番7号  
販売元：  
**三共株式会社**  
東京都中央区銀座2丁目7番12号 〒104 ☎(03)3562-0411



いつも暮らしの中に  
**LION**



歯周ポケットに働く  
ライオンのデンターシステム。

新発売  
歯周ポケットにシステムで働く  
**デンターシステムライオン**

## 現代っ子の目、もっと大切に!!

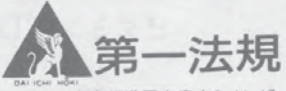


目の疲れ・眼病予防に  
**こどもサンデ**  
目薬

参天製薬株式会社  
大阪市東淀川区下新庄3-9-19



## エイズに関する指導の手引



(財)日本学校保健会 編/文部省体育局 学校健康教育課 監修  
★B5判・80頁・定価800円(千実費)  
エイズの正しい理解と対応指導のために小・中・高校ごとの授業展開例を豊富に収録。

〒107 東京都港区南青山2-11-17  
☎03(3404)2251/FAX03(3404)2269

## AIDS—正しい理解のために

(財)日本学校保健会 編/文部省体育局 学校健康教育課 監修 ★B5判・8頁・定価50円(千実費)  
文部省が初めてまとめた、高校生向けのエイズ啓蒙・指導用教材。カラーイラストを多用してエイズを解説。  
この広告に掲載の書籍は、書店では取り扱っておりません。直接当社へお申し込みください。

■30部以上  
10部単位で  
承っております。